

## 地区懇談会記録（抜粋）

懇談会開催数：6ヶ所（5行政地区、西鎌倉地区）

### ※担い手について

#### 【課題】

- ・自治体役員のなり手がいない。60～70代が多いので、今後どうなっていくのか不安である
- ・マンションの役員は1年交代なのでやってくれるが、その他の実行部隊のなり手がいない
- ・今活動している方たちは高齢化してきている。新たな担い手を探していかなければいけないが、60代の方たちは仕事をしている人が多い。担い手不足をどの様に解消していけばいいか
- ・60歳を過ぎても働かなければならない人が増えている中で、平日の昼間の活動を求めていくと、ボランティアや町内の役員などは裕福な人しか出来ないのかとの話にもなってくる
- ・自治会役員や子ども会役員のなり手がおらず、役員にも高齢化が進んでいる。
- ・地域の担い手に過度な負担がかからないよう、住民、行政、市社協、包括の役割分担を明確にした方が良い
- ・深刻な問題として自治会の担い手が高齢者しかいない。民生委員のなり手がいない。子供会、老人会が成り立たない。このままだと、地域、コミュニティが崩壊すると危惧している
- ・現職が「自分たちがやるからいい」ではなく、若い人を引っ張っていかないと、尻すぼみになる
- ・町内会長は1年交代の町内会も多くあり、継続性が難しくなっている。その為、生活支援コーディネーターが行政地区に配置され、その方に聞けば大体その地域の事が分かる様になったらとてもありがたい
- ・子育て世代は子どもが小さいうちは地域の行事や学校行事に参加するが、大きくなるにつれ地域との関わりが減っていく

#### 【良い事】

- ・団塊の世代の方々が色々と頑張っていかなければいけない。地域に感謝する気持ちが大切だと思う。あと悪い事ばかりに目を向けなくて、いいところに目を向けることも大切
- ・地域には60代、70代で家にいる方は沢山いる。その様な人たちに日頃から声を掛けることが必要
- ・自治会、町内会に入りたいと思えるような周知やアピール方法を考える必要がある。
- ・町内会に40代の役員が入っている地域があり、若い人たちの視点で企画・運営している地区もある
- ・若い世代との世代間交流は少しずつお祭り等の機会を利用して進めていくしかないのではないかと
- ・役員の任期は1年になり、1年では何も出来ないとと言われてきているが、1年で変わることはいいこともあり、それだけ多くの方が自治会の役員を経験することになる
- ・定年になった方がすぐに地域に戻ろうとしてもなかなか戻れないため、55歳くらいから戻る準備をする必要があると思う

### ※活動場所について

#### 【課題】

- ・市民が活動する場・集える場を作ってもらいたい。市役所を移転する際はコミュニティスペースを設けてもらいたい
- ・地区社協の拠点が欲しい
- ・70代の方々が色々な活動をしている。しかしその活動を繋ぐ場所がない。その為、空き家を活用して高齢の方が集まって噂話をしながら町のことに関心をもっていく。そこに若い方が入って繋がりをもっていく。その様な場所が歩ける範囲に何か所かあるといい。その様な場所に空き家を活用出来たらいい

### 【良い事】

- ・空き家を活用してかもめサロンをやっている

## ※地域の活動について

### 【課題】

- ・無縁社会の中でワンルームのマンションはコミュニケーションが取れない。誰が住んでいるのか分からない
- ・一人暮らしの方は精神的に不安なこと以外困りごとはないと思う
- ・家族間でのコミュニケーションが取れていない事を感じることもある
- ・昔は子どもも多くて子供会があり連携をとって様々なイベントが出来たが、子どもが減ってきて子供会が無くなってしまった。親同士が接点を持つところは幼稚園などになってしまうため、隣接する地域での情報交換は薄いと思います
- ・ゴミ屋敷があるが周りの人が見て見ぬふりをしている。自治会の存続、コミュニティの維持が一番の課題
- ・地域の安定や交流がない中で人の入れ替わりが激しく、大きい家が細分化されてきて核家族化してきており、その中で高齢者が孤立してきているのが活動している中で一番気になる

### 【良い事】

- ・雨戸の開閉や食事のこと等もっと身近なことで困っている方も多い。ちょっとしたお手伝いがあれば、まだまだ地域で生活できる人もいる

## ※情報の共有について

### 【課題】

- ・民生委員と自治会役員がコミュニケーションとる必要がある。しかしプライバシーの問題がありうまく出来ない
- ・高齢者世帯が増えてはいるが、個人情報やプライバシーの関係で、隣近所以外の把握が難しくなっている
- ・活動される方の趣旨と地域のニーズがマッチングしていないことがある。その為、そのニーズを的確に捉えて情報を共有していくことが大切だと思う
- ・個人情報も大切だが、顔見知りや、気配りをする人が大切

## ※災害時について

### 【課題】

- ・大災害が起きた時、要支援者へどう対応してよいのか分からない
- ・災害時要援護者名簿を受け取っている地区と受け取っていない地区がある
- ・災害時の要援護者支援について、助ける人、助けられる人、調査する人が密に連携を取っていかなければいけないが、制度が漠然としていて役割が明確化されていない
- ・独居高齢者が増加し災害時どうするかという課題はある
- ・災害時は民生委員も被災者になる。要援護者支援の名簿もあるが、登録しているからといってすぐに助けが来ると思われるのも困る
- ・災害時避難行動要支援者に対する支援方法が問題となっている。市の防災課は該当者名簿を町内会または民生委員に配布しその後の対応については勝手にやれ、とそれぞれの立場で対応願いたいという事になっている。しかし支援者側も高齢者が行う状況になるので、この辺の対応が大変難しいと苦慮している。もう少し何か関係機関と連絡体制を取って進めることが出来ないかと思う

### 【良い事】

- ・災害時は自助を基本に、津波や災害時はまずは道路に出てもらうよう声かけをしている

## ※市・市社協について

### 【課題・市】

- ・役所としてここまでやるから自治会町内会はここをお願いします、という形でコミュニケーションが取れるとよい
- ・行政のかかわり方によって地域の状態が違ってくると思う。カフェ玉縄などは支所が非常に強力的で地域の中に自分たちも入っていくとの心持でいてくれる。地域が一生懸命やっているときに行政のバックアップがいかにかたのこを痛切に感じている。市役所も縦割りではなく柔軟に対応していく体制を作ってほしい。社協も
- ・共生社会、地域まるごとというのであれば、まずは市役所の職員自身が意識改革をすべきではないのか
- ・元気な高齢者を増やすために、予防（医療・介護）にもっと税金を使うべきではないか
- ・役職がある人だけではなく、もっと広く地域住民の意見を聞く場を設けても良いのではないか
- ・高齢、障害、児童といった分野にとらわれず総合相談ができる窓口を作ってほしい
- ・行政から自治会に丸投げ。補助や協力が出てこない。行政がここまでやるからあなた方も協力してくれなら話はわかる

### 【課題・社協】

- ・地域福祉コーディネーターは色々な事をやらなければならないので、最低でも3年は同じ人がやらなければいけないのではないか
- ・社協も地域に出向くことによって色々なことが見えてくるはずだが、ここ何年間かは殆どなかった。社協は専門職なので協力を仰ぎたい
- ・役職がある人だけではなく、もっと広く地域住民の意見を聞く場を設けても良いのではないか
- ・高齢、障害、児童といった分野にとらわれず総合相談ができる窓口を作ってほしい
- ・市社協は横の連携体制が出来ていると思うが、地域の力で困っている方を助けることは各市町村でメニューがあると思うので是非その様な情報を発信してほしい。そのことが活動に結びつくのではないか
- ・市社協の方も各地区に出向いて状況を把握してほしい
- ・社協又は市は、自分達でこれは出来るこれは出来ない、ということをきちんと説明しないと、我々は何をしたら良いか分からない
- ・子ども会も町内会も人が替わる。活動が始まり動きだすと、集まりも定期的に行われる。いつも動き出す前に人が替わっていくケースが多い。社協の専門員を配置すると言っていたが、活動が軌道に乗るまでの仕組みを作って欲しい
- ・大規模災害が起きた場合に、行政は誰が職場に駆けつけるなどの体制は出来ていると思うが、市社協は出来ているのか。出来ているのであれば地区社協にも求めるものなのか

## ※ささえあい福祉プランについて

- ・計画は作るだけが目的でなく、実行しなければいけない。そのために大事なことは、作る側と実行する側の信頼関係が必要である
- ・ささえあい福祉プランを作るときも地域差を考えて検討してもらいたい
- ・一次計画は勉強されていて課題もありとても良いと思うが、3年間やってきての結果をはっきりして貰いたい。PDCAにそってやって欲しい。何が出来なくて、住民にどのようなことをして欲しいのか、課題を掘り下げて欲しい
- ・改定するのはおそらく今の計画に不満足があるからだと思う。その不満足な部分をどのように直し、それを市あるいは市社協あるいは住民が、どう人たちがシェアできるかきちんと出していただきたい
- ・プランを町内会長に配布しても引継ぎされていない実態がある。引継ぎしてもらおう形にして頂きたい